

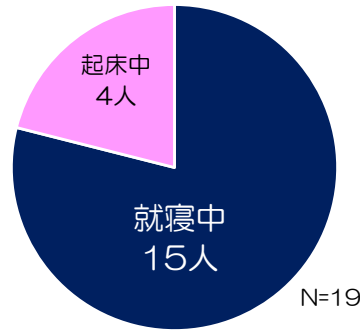
STOP! 電気火災

東京消防庁

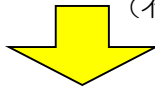
住宅用火災警報器で早期発見

電気コード火災等による死者は不明のものを除くと、多くの方が**就寝中**に発生した火災により命を落としています。

住宅用火災警報器を**全ての居室・台所・階段**に設置し、火災を早期に発見することで、命を守りましょう。



電気コード火災等による死者の状況 (不明9人を除く H22~H26 住宅火災)

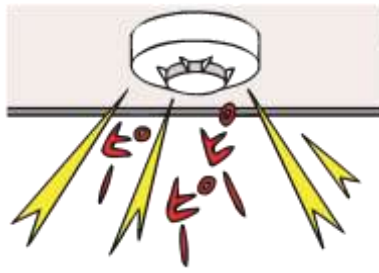


設置してよかった!

男性(60代)は、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、居室内で火が見えたので水道水で消火した。壁付コンセントから延長していた電気コードが、家具等の踏みつけにより短絡し、周囲のごみくずに着火し出火していた。



コンセントや電気コードの周りには、燃えやすいものを置かないようにしましょう!



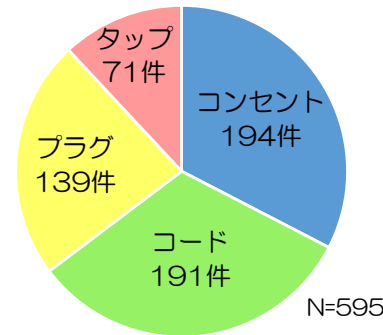
問合せ先 東京消防庁〇〇消防署〇〇課 電話〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

平成27年8月発行

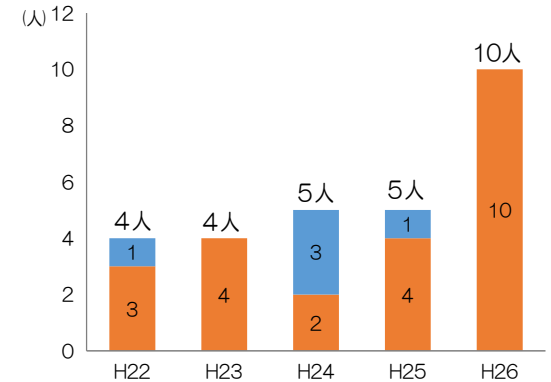
身近にひそむ火災危険

電気火災とは、電気や電気製品にかかわる火災のことをいいます。

電気火災の中でもコードやタップ、プラグ、コンセントに起因する火災(以下「電気コード火災等」という。)は、火を使用している意識がないため、火災に気づきにくく危険です。



発火源別の電気コード火災等発生件数 (H22~H26 住宅火災)



※ コード：電気コード・コードコネクタ
タップ：テーブルタップ・マルチタップ

電気コード火災等による死者数 (H22~H26 住宅火災)



電気火災の起こる仕組みを知って、火災を予防しよう!

電線が短絡（ショート）・半断線する

電気コードの家具等の踏みつけ、束ねての使用、折れ曲がったままの使用は、コードの被覆の損傷や温度上昇、経年劣化による短絡（ショート）、半断線を引き起こし、火災の原因に！

電気コードを家具の下敷きにしない

束ねて使用しない

折れ曲がりに注意する



トラッキング

コンセントに差したプラグの差し刃間についたほこりが湿気を帯び小さなスパークを繰り返し、電気回路が形成され出火！



定期的に点検・清掃する

使わないプラグは抜いておく

見えにくい場所のコンセントは特に注意する

金属の接触部が過熱する

プラグがコンセントにしっかり差込まれていなかったり、プラグの差し刃が変形していたりすると、過熱して火災の原因に！



プラグはコンセントにしっかり差込む

プラグ・コンセントは変形等がないか定期的に点検する

過多の電流が流れる

タップを決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因に！

タップは決められた容量内で使用する

